

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳					
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 事務エリアに面するガラスはLow-eガラス使用し、カーテンウォール部は、縦ルーバーを設置し、熱負荷抑制に配慮している。	3.0	0.59	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
	0.0	0.00								
		5.0	0.41	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制			
小計	3.8	0.07								
1.2 自然エネルギーの利用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 雨水の中水利用設備を設置している。	3.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用				
小計	3.0	0.06								
1.3 設備システムの高効率化										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 高効率機器やLED照明を採用している。	3.9	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	3.9	0.28								
1.4 設備システムの効率的運用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください BEMSを設置して、エネルギー消費量を把握し、エネルギー消費の目標量を算出できる計画としている。	4.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	4.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	4.0	0.11								
1.5 資源・マテリアル対策										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型便器を採用し、雨水を中水利用できる計画としている。 内装材には一部リサイクル材を使用する計画としている。	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	4.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利用システム導入の有無
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.3	0.34								
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください LCCO2を一般的な建物の排出量で計画している。	3.3	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	3.3	0.14								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価			3.6	0.72						
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 温熱環境の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 広島市基準に基づく、樹木を設置する計画としている。	1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	2.0	0.97								
2.2 交通負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐輪場を設置し、交通負荷の抑制に配慮している。 広島市の附置義務基準に基づく駐車台数を隔地駐車により確保する計画としている。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	4.0	0.03								
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価			2.1	0.19						
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 免震構造を採用し、建物の長寿命化を行なっている。 内部間仕切りは、躯体と切り離れた乾式壁にて構成し、更新しやすい計画としている。	3.0	0.18	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	1	耐震性
	5.0	0.27	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	2	免震・制振性能
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	5.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	4.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
	小計	3.8	0.58							
3.2 設備の更新性										
(コメント) ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 設備バルコニーを設け、各階ごとに空調機を配置するなど、メンテナンスしやすい計画とすると共に、更新時のバックアップ空間も確保している。	4.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	4.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	5.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	5.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	5.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	4.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	4.4	0.42								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)			4.0	0.09						
■重点項目の総平均(上記3項目)			3.3							